

令和6年度

肢体不自由教育部門

高等部

第1学年

⑤学習グループ

年間指導計画

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	現代の国語		学習グループ名		高⑤
目標・ねらい	(1) 適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。 (2) 思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨く。 (3) 表現することで国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
担当教職員 *学校介護職員	張替 良太				
年間授業時数	70 単位時間				
使用教科書	新編 現代の国語 (大修館書店)				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)		指導上の留意点及び工夫
4	・「変わる」ことをたのしもう ・コミュニケーションは技術だ	5	○「変化」や「変わること」について思いを交流する、筆者の主張をまとめる。 ◆本文全体の概要を把握する。筆者の主張に自分の意見を持つ(知識・技能)		語句や語彙の構造や特色、用法及び表記のしかたを辞書を使用し理解していく。
5	・ことばの使い分け ・正しく書こう ・文を整え、文をつなぐ	7	○言葉を正しく使い分ける理由を考える、敬語を使い分ける。 ◆敬語の正しい使い方や類義語のニュアンスの違いを理解し、適切に使い分ける。(知識・技能)(表現)		プリントやワークシートを使って確認をしながら学んでいく。
6	・人間はゴリラとチンパンジーのどちらに近いか ・ナンバーワンか、オンリーワンか	8	○文章校正に着目し、問題提起と答えの関係を押さえる。筆者の問題提起について考え、自分の意見を発表する。 ◆本文の説明の仕方の特徴を捉える。(知識・技能)(思考・判断・表現)(主体的に学習に取り組む態度)		文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方についてプリントを使用する。
7	・生きることと食べることの意味 ・絵や写真を説明しよう	6	○文章の効果的な組み立て方を理解する。 ◆説明の仕方に注意して、文章の構成をつかむ。(知識・技能)(思考・判断・表現)(主体的に学習に取り組む態度)		ペアワークで様々な説明を体験的に学ぶ。
9	・オカピの胃袋はいくつか	8	○筆者の主張と根拠を意識して読む。対比、具体と抽象の関係を捉える。 ◆論理的な文章の要旨を的確に読み取る。(知識・技能)		具体と抽象の関係、主張と根拠の関係を整理しながら重なっていることを確認する。
10	・商品と贈り物の違い ・水の東西	8	比喩、例示、言い換えの意味を理解する。 ◆具体例の働きを捉え、筆者の主張を読み取る。(知識・技能)		分からない語句を説明しながら取り組む。
11	・伝えあいのレッスン	8	○対話の力やコミュニケーションを高めることに関心をもつ。 ◆目的に応じて、話し方、聞き方を工夫する。(知識・技能)		音声データを活用しながら対話の力を育む。
12	・どこもかしこもプラスチック	4	○読み取った情報を文章にまとめる。 ◆文章とグラフの関係に注意して、文章を読み取る。(思考・判断・表現)		文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら行っていく。
1	・プレゼンテーションをしよう	5	○目的に応じた構成について考える。 ◆構成や発表の仕方を工夫する。(思考・判断・表現)		場の状況に応じて資料や機器を効果的に活用して発表をする。
2	・何のために「働く」のか	7	○文章を読み、どのように生きていきたいかをまとめる。 ◆筆者の主張を読み取り、自分の意見をもつ。(知識・技能)(思考・判断・表現)		ワークシートを活用し、意見文を書く。
3	・自分の考えをつくるために	4	○自分の考えをまとめ、発表する。 ◆自分の考えを広げ、深める。(思考・判断・表現)		論理の展開、情報の分量や重要度などを考えながら説明を行う。

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	言語文化		学習グループ名	高⑤	
目標・ねらい	(1)古文や漢文を含めた様々な作品に触れ、思考力、判断力、批判力を養う。 (2)高校生としてふさわしい「読み」「書き」の力を身に付ける。 (3)適切に思考、判断、表現する力を育成し、他の学習に生かす。				
担当教職員 *学校介護職員	所 竜之介				
年間授業時数	70 単位時間				
使用教科書	新編言語文化(第一学習社)				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)		指導上の留意点及び工夫
4	・島の少年 一船 (小説)	5	○登場人物の性格、行動を整理し、心情の変化を読み取る。 ◆登場人物の心情をそれぞれの視点に立って読み解く。(思考・判断・表現)		・場面ごとに情報を整理していく。
5	・よろこびの歌(小説)	7	○一人称で書かれた小説の特徴を理解し、文中の情報の性質を把握する。 ◆主人公と周囲の意識のずれが何から生じているかを捉え、心情の変化を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)		・主人公と周囲の人物を対比する形で読解を進めていく。
6	・羅生門(小説)	8	○芥川龍之介の人生や、作品について理解を深める。 ○作品世界に関心をもち、時代背景や物語の結末について考える。 ◆近代小説を味わい、読み親しむ。(知識・技能)(思考・判断・表現)(主体的に学習に取り組む態度)		・作者がどのような人物かを踏まえて読解を進める。 ・作品舞台の時代背景を踏まえて、内容を捉えていく。
7	・詩	6	○詩の表現技法や表記の効果を理解する。 ○詩の内容を読み取り、主題や題名の意味を考える。 ◆近現代の詩を読み、作品に込められた思いを読み取る。(知識・技能)(思考・判断・表現)(主体的に学習に取り組む態度)		・詩の表現技法がどのように使われているか、身近な歌などを例として示す。 ・詩の表現技法を踏まえて、内容や主題を読み取っていく。
9	・漢文、故事成語、漢詩	8	○プリントで訓読する練習をする。 ○古代中国人の考え方を知る。 ◆基本的な事柄を習得する。(知識・技能) ◆漢文に親しみ、中国文化への理解を深める。(思考・判断・表現)(主体的に学習に取り組む態度)		・中学部での既習事項を再確認しながら進める。 ・中国文化を踏まえて学習を進める。
10	・古文入門 ・児のそら寝 ・なよ竹のかぐや姫	8	○説話、物語を読み、歴史的仮名遣いや古語単語を学ぶ。 ◆古文に親しみ、日本の言語文化への理解を深める。(知識・技能)		・中学部での既習事項を再確認しながら進める。 ・古典知識を踏まえて学習を進める。
11	・枕草子、徒然草、方丈記	8	○古文の文法を学ぶ。 ○古文の読解に慣れる。 ◆作者のものの見方、考え方を読み取る。(知識・技能)		・古文文法と口語文法を比較する。 ・古文文法や古典知識を活用して読解をする。
12	・和歌	4	○作者のものの見方、感じ方、考え方を理解する。 ◆和歌の鑑賞の仕方を理解する。(思考・判断・表現)(主体的に学習に取り組む態度)		・詩の表現技法を意識して和歌を鑑賞する。
1	・短歌と俳句	5	○詠まれている情景や心情を読み取る。 ◆近現代を代表する歌人・俳人の作品を味わう。(思考・判断・表現)		・歌人、俳人の背景を踏まえて、歌に込められた心情、情景を読み取る。
2	・ほねとたね(小説)	7	○作中の描写や表現から、登場人物の人物像を捉える。 ○主人公の心理的变化と成長を正確に読み取る。 ◆登場人物の人物像を把握し、主人公にもたらした心情の変化を読み取る。(知識・技能)(思考・判断・表現)		・場面ごとに主人公の心情をまとめ、心情の変化を読み取る。
3	・よだかの星(小説)	4	○作者の思想について、理解を深める。 ○作品に含まれる寓意性を読み取る。 ◆人間への洞察力を高める。(思考・判断・表現)(主体的に学習に取り組む態度)		・詩を引き合いに出し、物語の中にも書き手の思想が反映されていることを意識して読解する。

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	公共	学習グループ名	高⑤
教科等名	公共		学習グループ名		高⑤		
目標・ねらい	(1) 社会の一員として必要な法、政治及び経済などの社会生活に関わる基礎を理解し、深める。 (2) 複雑で変化の激しい社会の中で、主体的に判断しながら、課題を解決していく力を養う。 (3) グローバル社会における平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育む。						
担当教職員 *学校介護職員	志賀 拓也						
年間授業時数	70 単位時間						
使用教科書	公共 (東京書籍)						
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)			指導上の留意点及び工夫	
4	○「公共」のとびら 青年期 社会的な関係のなかで生きる 人間 人間としての在り方生き方	12	○現代社会における青年期く自分史年表・ワークシート> ◆現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察し、表現することができる。			青年期の発達課題について理解を深め、社会とのつながりを確認することで、客観的に自己を捉えキャリア形成ができるようにする。	
5			○公共的な空間<ワークシート> ◆公共的な空間と人間との関わりについて知り、主体的に社会に参画する態度を養う。			公共空間の特徴を捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方について倫理的主体としての判断ができるようにする。	
6	○民主政治と私たち 民主主義と政治参加 法の働きと私たち	15	○民主政治の仕組みと政治参加<ワークシート> ◆民意を反映した政治実現のための現状と課題について、理解を深め、主体的に関わる態度を養う。			民主主義について理解を深め、主権者として主体的に参画するための考え方や態度を養うようにする。	
7			○法や規範の意義と仕組み<ワークシート> ◆法や規範の意義や役割を考え、憲法に定められた国民の権利と生活との密接な関係について考察し、理解を深める。			憲法の下、個人が主体となり議論に参加することで、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されることを理解する。	
9			○生活の中の司法と司法参加<ワークシート> ◆実生活と関係の深い法や制度について考察し、司法の仕組みや権利と責任について考察することができる。			ICT機器を活用して、身近な法や裁判などについて調べ、興味・関心を高め、主体的に思考・判断ができるようにする。	
10	○経済社会で生きる私たち 現代の経済と市場 財政の役割と持続可能な社会 保険制度	12	○現代の経済と市場<ワークシート> ◆公正で自由な経済活動のために国の果たすべき役割や、市場経済の仕組みについて理解を深める。			複雑化する現代の経済の仕組みを理解し、経済的主体として、思考・判断できるように身近な事例を例に考察する。	
11			○金融と財政<ワークシート> ◆経済の抱える課題や社会保障の意義と歴史、日本の社会保障制度について、実生活と関連付けながら調べ、主体的に考察することができる。			利用できる福祉サービスや実際の生活と関連する事例を取り上げ、具体的なイメージがもてるようにする。	
12	○私たちの職業生活	7	○働くことの意義と職業選択・労働者の権利<ワークシート> ◆働くことの意義や産業社会の発達と職業の変化について知り、キャリア形成について主体的に考察することができる。			ICT機器やインタビューで職業について興味・関心を高め、自己のキャリア形成について主体的に考察できるようにする。	
1	○国際社会のなかで生きる私たち 国際社会のルールと仕組み 仕組みと課題 グローバル化する国際経済	12	○国際社会のルールと仕組み<ワークシート> ◆国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割など、グローバル化する社会について理解を深める。			国際社会において相互依存関係が深まっていることを理解し、我が国の国際的な立場や役割について考えを深める。	
2			○グローバル化する国際経済と平和への課題<ワークシート> ◆身近な国際社会とのつながりから、様々な国際課題や我が国との関係性について理解を深める。			身近なニュースや、外国の製品、文化などを取り上げ、主体的に考察できるようにする。ICT機器を活用して調べ学習をする。	
3	持続可能な社会	12	○持続可能な社会づくりに参画するために<調べ学習・発表> ◆現代社会の抱える諸課題について興味・関心をもち、持続可能な社会について主体的に探求することができる。			SDGsの項目から個々の興味・関心に合わせて課題を設定し、主体的な学びを引き出す。	
通年	開け社会の扉		ニュースなどの時事問題について知る・調べる・発表する。			授業と関係あるものや、最新のニュースを取り上げる。	

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画							
学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	準ずる教育課程		
教科等名	数学 I		学習グループ名	高⑤			
目標・ねらい	<p>(1) 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>						
担当教職員 *学校介護職員	杉浦 春久						
年間授業時数	105 単位時間						
使用教科書	新編 数学 I (数研出版)						
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)	指導上の留意点及び工夫			
4 5	第1章 数と式 式の計算		◆式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換 えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、 目的に応じて適切に変形したりする力を培う。	既習事項を振り返り、生徒の理解度を確認しながら学習を進める。			
		3	○多項式の加法と減法				
		3	○多項式の乗法				
		4	○因数分解				
	実数		1	問題演習	既習事項である数の拡張を実感しやすくするために、数直線や図形を活用する。		
			◆中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系につ いての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていること や、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解すると ともに、簡単な無理数の四則計算ができるようになる。				
		2	○実数				
		3	○根号を含む計算				
	1次不等式		1	問題演習	不等式を数直線上に表したり、不等式を式変 形していく中で具体的な数値を用いて不等号 の向きがどのようになるかに注視させたりす る。		
			◆不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等 式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に 関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。				
		2	○不等式の性質				
		2	○1次不等式				
6	2次不等式	2	○絶対値を含む方程式・不等式				
		1	問題演習				
		7	第2章 集合と命題			具体的に事象を取り扱うことで、イメージし やすくする。	
			◆集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活 用できるようにする。				
2	○集合						
3	○命題と条件						
2	○命題とその逆・対偶・裏						
3	○命題と証明						
9	第3章 2次関数 2次関数のグラフ	2	問題演習	ICT機器を活用して、2次関数の式の変化 とグラフの変化が連動することに視覚的に気 付かせる。			
			◆2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2次関数の 式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いて グラフを描くなどして多面的に考察する。				
		3	○関数とグラフ				
		5	○2次関数のグラフ				
		2	問題演習				

月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)	指導上の留意点及び工夫	
10	2次関数の値の変化		◆2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。	具体的な事象や身近な題材を用いて、2次関数の値の変化の様子を捉えやすくする。	
		4	○2次関数の最大・最小		
		4	○2次関数の決定		
		2	問題演習		
	2次方程式と2次不等式		◆2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	2次関数のグラフの作図を通して、2次関数のグラフと2次方程式や2次不等式との関係を示していく。	
		2	○2次方程式		
		3	○2次関数のグラフとx軸の位置関係		
		6	○2次不等式		
11		3	問題演習		
		3	問題演習		
		3	問題演習		
		3	問題演習		
12	第4章 図形と計量 三角比		◆三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。	図形に関する既習事項を確認しながら三角比と結び付けていく。	
		3	○三角比		
		2	○三角比の相互関係		
		3	○三角比の拡張		
	1	三角比への応用		◆図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。	定理や公式の暗記に陥らず、成り立ちやその活用に重点を置く。
			2	○正弦定理	
			2	○余弦定理	
			3	○正弦定理と余弦定理の応用	
	2		2	○三角形の面積	
			3	○空間図形への応用	
			3	問題演習	
			3	問題演習	
3	第5章 データの分析		◆データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う。	統計的な要素をもつ身近な話題やニュースなどに触れ、データを分析してわかることを考察したり議論したりするなどの活動を行う。	
		2	○データの整理、データの代表値		
		2	○データの散らばりと四分位数		
		2	○分散と標準偏差		
		2	○2つの変量間の関係		
		2	○仮説検定の考え方		
		1	問題演習		

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画						
学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	準ずる教育課程	
教科等名	数学A		学習グループ名	高⑤		
目標・ねらい	<p>(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見出し、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見出し、数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>					
担当教職員 *学校介護職員	長嶺 亜矢子					
年間授業時数	70 単位時間					
使用教科書	新編 数学A (数研出版)					
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)	指導上の留意点及び工夫		
4 5 6 7 9 10 11	第1章 場合の数と確率 場合の数 確率		◆場合の数を求めるとき基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。			
		2	○集合の要素の個数		要素は小文字で示すことに注意する	
		4	○場合の数		個数の求め方を理解させる	
		5	○順列		公式を利用する	
		6	5	○組合せ		公式を利用する
		2	問題演習		復習問題に取り組ませる	
			◆確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。			
		4	○事象と確率		具体例を用いて説明する	
		5	○確率の基本性質		多数の観察や多数回の試行を行う	
		5	○独立な試行と確率		独立な試行の意味を具体例を通して示す	
		5	○条件付き確率		条件付き確率の意味を具体例を通して示す	
3	○期待値		身近な例を通して計算に導く			
2	問題演習		復習問題に取り組ませる			
12 1 2 3	第2章 図形の性質 平面図形 空間図形		◆平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。			
		2	○三角形の辺の比		内分、外分の練習をする	
		3	○チェバの定理・メネラウスの定理		定理を使うよう練習させる	
		2	○円に内接する四角形		証明を通して定理を理解させる	
		4	○円と直線		接弦定理を示して練習問題に取り組む	
		3	○2つの円		共通接線を示して理解させる	
		4	○作図		これまで学習した作図を復習する	
		2	問題演習		復習問題に取り組ませる	
			◆空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。			
		3	○直線と平面		位置関係を丁寧に示す	
		3	○空間図形と多面体		正多面体の性質を示す	
2	問題演習		復習問題に取り組ませる			

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	科学と人間生活		学習グループ名		高⑤
目標・ねらい	(1) 自然の事物・現象についての理解を深める。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
担当教職員 *学校介護職員	橋 早百合				
年間授業時数	70 単位時間				
使用教科書	科学と人間生活(東京書籍)				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)		指導上の留意点及び工夫
4	微生物とその利用	7	○さまざまな微生物(ワークシート、実験、観察) ◆微生物のはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを人間生活と関連付けて理解し、微生物の利用について表現している。		科学史を通して、細菌やウイルス発見の歴史を学び、基本的な概念や原理・法則を学ぶ。
5		7	○私たちのくらしへの微生物の利用(ワークシート、実験、観察) ◆微生物とその利用について、問題点を見だし、人間生活と関連付けて科学的に探究し、考察している。		増殖実験や水の浄化などの生態系での分解者としての役割に触れる。
6		2	○章末(ワークシート) ◆生態系での物質循環における微生物のはたらき、発酵食品や医薬品への微生物の利用について、人間生活と関連付けて理解している。		確認テストやレポート作成などを行う。
7	衣料と食品	7	○衣料の科学(ワークシート、実験、観察) ◆身近な衣料材料の性質や用途についての基本的な概念や原理・法則などを日常生活と関連付けて理解する。		既習事項を確認し、日常生活における代表的な物質の性質や用途を取り扱う。
9		8	○食品の科学(ワークシート、実験、観察) ◆身近な食品中の主な成分の性質についての基本的な概念や原理・法則などを日常生活と関連付けて理解する。		既習事項を確認し、日常生活における代表的な食品の主成分を取り扱う。
10		2	○章末(ワークシート) ◆繊維の種類や性質、用途および食品中の主な成分の性質について、人間生活と関連付けて理解する。		確認テストやレポート作成などを行う。
11	熱の性質とその利用	7	○熱とは何か(ワークシート、実験、観察) ◆熱の性質について基本的な概念や原理・法則などを日常生活と関連付けて理解する。		既習事項や生活経験から授業内容を展開する。
12		7	○エネルギーの利用と私たちのくらし(ワークシート、実験、観察) ◆エネルギーの変換と保存および有効利用について基本的な概念や原理・法則などを日常生活と関連付けて理解し、科学技術の活用について多面的に考えようとしている。		日常生活や社会で利用されている科学技術に触れる。
1	自然景観と自然災害	7	○身近な自然景観の成り立ち(ワークシート、実験、観察) ◆身近な自然景観の成り立ちについて基本的な概念や原理・法則などを日常生活と関連付けて理解する。		ICT機器を利用し、地表の景観は変化し続けていることをイメージしやすくする。
2		9	○自然災害と防災(ワークシート、実験、観察) ◆自然災害について基本的な概念や原理・法則などを日常生活と関連付けて理解し、生命を守るためにできることを表現している。		ハザードマップや具体的な自然災害を取り入れる。
3	課題研究	7	○課題研究(ワークシート、実験、観察) ◆これからの科学と人間生活との関わり方に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		友達と協力して行える課題を設定する。

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1・2学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	体育(実技)		学習グループ名		高⑤
目標・ねらい	(1) オリンピックやパラリンピックに関連付けながらスポーツや身体活動への意欲や関心を高めていく。 (2) 個々の実態に応じた課題やルール設定を行うとともに、話し合いの場面を設定する。 (3) 目的に向けた主体的な過程を称賛し、身体活動の楽しさを実感させ生涯スポーツへの意識を高める				
担当教職員 *学校介護職員	鎌形 翼、平井 帆香、杉浦 春久				
年間授業時数	70 単位時間				
使用教科書	新高等保健体育(大修館書店)				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)		指導上の留意点及び工夫
4	体づくり運動	8	○柔軟ストレッチ運動、ラジオ体操や選択した曲で競技に合った体操の創作を行う。 ◆身体の柔軟性について理解し、自分の身体の使い方を知る。		様々な動きのストレッチを行い、自身の体に関心を向けられるようにする。
5	陸上競技 体育祭種目練習	14	○陸上競技についての知識を深め興味や関心がある種目を選び、記録を計測する。体育祭に向けて競技のルールを理解したり周囲と協力して競技を行う。 ◆自己記録に挑戦したり、仲間と協力して競技に参加したりすることができる。		体育祭に向けての見通しがもてるように自身が出場する種目や日程の確認を行う。 自身の記録の変化が分かるようにする。
6					
7	水泳	10	○泳法の学習やリラクゼーションを行う。 ◆泳法について学習したり、浮力を用いた活動を通して健康の保持増進を図る。		泳法の学習では、それぞれの泳法の特徴を学習し理解してから実技を行うようにする。 安全に留意し、浮き具などを活用しながら行う。
8					
9					
10	球技「ボッチャ」	14	○投球方法やルールの確認、試合の中で実践的に戦略を立てる。 ◆自分が狙った場所にボールを打つことができる。		仲間と戦略を立てるように促す。試合終了後に得点や戦術について確認を行う。
11					
12	武道「柔道」	10	○道着の着衣、つかみ、寝技の体験を行う。 ◆伝統文化として武道の基本を体験を通じて理解する。		実際の試合を見たり使用する道具に触れたりして興味や関心をもてるようにする。
1					
2	球技「ハンドサッカー」	14	○ルールの理解や試合の中で実践的な動きを行う。チームで作戦を立てる。 ◆ルールを理解し、周囲と協同してプレーする。		チームで話し合う時間を設ける。試合では、フェアプレーやスポーツマンシップにのったプレーを意識させる。
3					

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	保健		学習グループ名	高⑤	
目標・ねらい	(1) 健康や安全に対する理解を広げ、深める。 (2) 生涯を通じて自らの健康を適切に考えたり判断したりすることができる。 (3) 自ら健康に関する課題を発見し主体的に解決を図ろうとすることができる。				
担当教職員 *学校介護職員	高橋 大幸				
年間授業時数	35 単位時間				
使用教科書	新高等保健体育(大修館書店)				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)		指導上の留意点及び工夫
4	・日本における健康課題の変遷 ・健康の考え方や成り立ち	3	○健康水準の変化やその要因について ◆健康の考え方がどのように変化してきたのか理解する。		グラフや資料を見て変化や傾向を理解できるようにする。
5	・ヘルスプロモーション ・健康に関する意思決定	3	○ヘルスプロモーションの考え方、より良い意思決定・行動選択の方法 ◆健康を保持増進するための環境について理解する。		自身の生活を振り返りながら学習を行う。
6	・現代における感染症の問題 ・感染症の予防	3	○時代や地域で変化する感染症、感染症予防の三原則について ◆感染症の発生や流行の現状を理解する。		流行している感染症の話題に触れながら学習を行う。
7	・性感染症・エイズとその予防	3	○性感染症やエイズの理解、性感染症やエイズを予防するための対策について ◆性感染症やエイズの予防に必要な個人や社会の取り組みについて理解する。		グラフや資料を見て変化や傾向を理解できるようにする。
9	・生活習慣病の予防と回復 ・身体活動	3	○生活習慣の理解や予防と回復のための取り組みについて、運動の実践や社会環境の整備について。 ◆生活習慣病の予防や回復のために必要な社会の取り組みについて理解する。		自身の生活習慣を振り返ることで身近な健康課題として捉えられるようにする。
10	・食事と健康 ・休養・睡眠と健康	4	○食事と健康の密接な関係についての学習、休養や睡眠と健康の関係について。 ◆食事や休養、睡眠が健康に及ぼす影響を理解し自身の生活を振り返る。		栄養がとれた食事のメニューを考えたり献立を考える機会を設ける。
11	・がんの予防と回復 ・喫煙と健康	4	○がんの予防と治療についての学習、喫煙による健康への影響についての学習。 ◆がんの予防や回復のために必要な個人および社会の取り組みについて理解する。		グラフや資料を見て変化や傾向を理解できるようにする。
12	・飲酒と健康 ・薬物乱用健康	3	○飲酒による健康影響や社会問題についての学習、薬物乱用による健康への影響と社会問題について。 ◆薬物乱用の防止に必要な個人及び社会環境への対策について理解する。		ロールプレイングなどを用いながら、学習を行う。
1	・精神疾患の特徴 ・精神疾患への対応	3	○精神疾患の理解と精神疾患の特徴や対応についての学習。 ◆代表的な精神疾患の特徴や症状について理解する。		調べ学習などを取り入れながら学習を進めていく。
2	・事故の現状と発生要因 ・交通事故防止の取り組み	3	○事故の発生に関する要因や事故防止のための取り組みについての学習。 ◆様々な場面で起こる事故とその被害の事態について理解する。		学校や自宅の周りの危険箇所を考えたり、事故防止のために自信ができることについて考える機会を設ける。
3	・安全な社会の形成 ・応急手当と心肺蘇生法	3	○応急手当の意義や心肺蘇生法の行い方の学習。 ◆応急手当の意義と、その手順や方法を身につける必要性について理解する。		実際に応急手当や心肺蘇生法を体験する。

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1、2、3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	音楽		学習グループ名	高⑤	
目標・ねらい	(1) 音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 (2) 感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 (3) 音楽文化についての興味・関心、理解を深め、卒業後の余暇活動へつなげる。				
担当教職員 *学校介護職員	高橋 尚子、杉浦 春久、志賀 拓也				
年間授業時数	35 単位時間				
使用教科書	音楽I Tutti+ (教育出版)				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)		指導上の留意点及び工夫
10	【楽器】 様々な楽器による合奏、指揮を体験する。 【歌唱・鑑賞】 日本歌曲に親しもう。	12	○強弱記号や速度記号などの楽典を理解し、楽器を演奏する。 ◆合奏を通して、奏法を工夫し表現する。 ○日本歌曲に親しみながら、曲の情景や雰囲気を感じながら歌う。 ◆歌詞の意味を理解し、表現方法を考える。		・交代で指揮者を体験する。 ・多様なジャンルの中から曲を選択できるようにする。 ・選曲によっては、少人数でのグループを作る。
11					
12	【楽器】 様々な楽器による合奏、指揮を体験する。 【歌唱・鑑賞】 世界の歌曲に親しもう。	13	○強弱記号や速度記号などの楽典を理解し、楽器を演奏する。 ◆合奏を通して、奏法を工夫し表現する。 ○世界の歌曲に親しみながら、曲の情景や雰囲気を感じながら歌う。 ◆歌詞の意味を理解し、表現方法を考える。		・多様なジャンルの中から曲を選択できるようにする。 ・選曲によっては、少人数でのグループを作る。
1					
2	【歌唱・楽器・鑑賞】 コンサートを開こう	10	○コンサートの運営・企画 ◆既習曲を発表する。 ◆主体的に活動に参加する。		・発表の日時を設定し、その日に向かって計画、練習できるようにする。 ・活動を振り返られるよう活動記録を活用する。
3					
通年 (後期)	【鑑賞】 作曲家新聞を作ろう		○クラシック音楽を鑑賞し特徴を知る。 ◆作曲家について、幅広い知識を得る。		

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1、2、3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	美術		学習グループ名		高⑤
目標・ねらい	(1) 素材やテーマからイメージを膨らませて自分らしい作品をつくる。 (2) 鑑賞、制作を通して様々な表現に触れ、身近なものに興味・関心を向ける。 (3) 作品を作ること見ることの楽しみを味わい、美術に親しむ心を育む。				
担当教職員 *学校介護職員	佐藤 やよい、高橋 奈穂美				
年間授業時数	35 単位時間				
使用教科書	美術1 (光村図書)				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)		指導上の留意点及び工夫
4	モダンアート: にじみ絵、吹き流し、ストリング(引き絵)。	12	○色の3原色を水や風や紐の動きによって混色しながら描画する。 ◆様々な技法で混色を行い、色の変化や形の変化を味わい楽しむ。		・手の操作性に合わせた、用具を工夫する。
5					
6	版画: モノ版画	12	○一回限り(モノ)の版画の難しさや緊張感を味わいながら制作する。 ◆色や形を工夫しながら、自分が納得できる作品を完成させる喜びを味わう。		・手の操作性に合わせた、用具を工夫する。
7					
9	絵画: 生物を描く(パチック等の技法を用いた描画)	8	○水彩や油絵具、アクリル絵、クレヨンなどを用いてパチックの技法を用いて生物を表現する。 ◆選択した生物の表現方法を模索し、効果的な技法で描画する。		・作る作品についてタブレット端末を用い、調べ学習をする時間を設ける。

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	英語コミュニケーションI		学習グループ名		高⑤
目標・ねらい	(1) 日常的・社会的な話題について、英語で理解したり表現したりすることができる。 (2) 演習等を繰り返し行い表現を身に付け、自主的に表現することができる。 (3) 視覚的資料を活用し、生徒が興味・関心をもって取り組むことができるようにする。				
担当教職員 *学校介護職員	高橋 奈穂美				
年間授業時数	105 単位時間				
使用教科書	All Aboard! English Communication I (東京書籍)				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)		指導上の留意点及び工夫
4	Warm-Up 1, 2, 3 Pre-Lesson 1, 2	8	○教室英語、自己紹介 ◆色々な動詞や疑問詞を理解・使用する。		できるだけ英語によるインタラクションを通して理解・表現につながる。
5	Lesson 1, 2	10	○世界の朝食・オーストラリアの珍しい動物について知る。 ◆過去形・進行形を理解・使用する。		できるだけ英語によるインタラクションを通して理解・表現につながる。
6	Lesson 3	13	○職業の意義について/道案内 ▲助動詞の用法を学ぶ。/道案内や人を誘うときの表現を学ぶ。		できるだけ英語によるインタラクションを通して理解・表現につながる。
7	Lesson 4	8	○ボリビアの絶景について知る。 ▲to 不定詞を理解・使用する。		できるだけ英語によるインタラクションを通して理解・表現につながる。
9	Lesson 5	10	○将来の夢について話す。 ▲動名詞を理解・使用する。		できるだけ英語によるインタラクションを通して理解・表現につながる。
10	Lesson 6	10	○浮世絵・現代の漫画について考える ▲受動態の文を理解・使用する。		できるだけ英語によるインタラクションを通して理解・表現につながる。
11	Lesson 7	10	○アンネ・フランクの生涯を知る。 ▲比較表現を理解・使用する		できるだけ英語によるインタラクションを通して理解・表現につながる。
12 1	Lesson 8	14	○科学技術と生活について考える。 ▲現在完了形の用法を理解・使用する。		できるだけ英語によるインタラクションを通して理解・表現につながる。
2	Lesson 9	11	○プラスチック汚染について考える。 ▲後置修飾の分詞を理解・使用する。		できるだけ英語によるインタラクションを通して理解・表現につながる。
3	Lesson 10	6	○戦中・戦後の歴史について学ぶ。 ▲関係代名詞を理解する。		できるだけ英語によるインタラクションを通して理解・表現につながる。
通年	ALTとの英会話	5	○ニュースや季節についての話題 ▲異文化に関心をもち、英語運用能力を高める。		できるだけ日本語を介さないで理解させる。

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	情報 I		学習グループ名		高⑤
目標・ねらい	(1) 効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに, 情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに, 情報社会に主体的に参画する態度を養う				
担当教職員 *学校介護職員	高澤 昇太郎				
年間授業時数	70 単位時間				
使用教科書	新編情報 I (東京書籍)				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)		指導上の留意点及び工夫
4	情報で問題を解決する	20	○様々なメディアの特性を理解する ◆メディアによってメリット、デメリットがあることを理解する		・現在や卒業後の生活を考え、自立に活用できる情報や技術を取り上げる ・一人一台端末や動画教材を活用し、視覚的、体験的学習を取り入れる ・プリントを作成し、教科書以外の知識も得ることができるようにする
5			○情報社会で生活していくための情報モラルを理解する ◆個人の責任の下に情報モラルがあることを理解する		
6	情報を伝える		○メディアとコミュニケーションの変遷について学習する ◆コミュニケーションの特徴を理解する		
7			○情報デザインについてプロセスを理解する ◆情報デザインのプロセスと活用方法を理解する		
9	コンピュータを活用する	20	○プレゼンテーションを作成する ◆伝えたいことを効果的に相手に伝えることができるか		
10			○コンピュータの基本構成について理解する ◆コンピュータの動作の仕組みを理解する		
11	データを活用する	20	○発展的なプログラムを組み、制御構造を理解する ◆プログラムの基本構造を理解する		
12			○情報通信ネットワークについて理解する ◆情報通信ネットワークの要素を理解する		
1			○データベースの役割を理解する ◆データベースの使い方理解する		
2	活動して提案する	10	○データ分析の流れを理解する ◆データの解釈方法を理解する		
3			○適切なデータの解釈方法を理解する ◆データの解釈方法を理解する。		

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	産業社会と人間		学習グループ名		高⑤
目標・ねらい	(1) 共生社会を構築する人材としての、社会生活や職業生活に必要な基本的能力や態度及び望ましい勤労観、職業観を育成する。 (2) 我が国の産業の発展とそれがもたらした社会の変化について考察する。 (3) 将来の生き方や進路について考え、その実現に向けた計画を自ら作成する。				
担当教職員 *学校介護職員	高橋 奈穂美、佐藤 やよい				
年間授業時数	70 単位時間				
使用教科書	なし				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)		指導上の留意点及び工夫
4	社会生活の基礎	2	○社会生活におけるルールとマナー、コミュニケーションスキル ◆社会と自己の関り方について考え、円滑な人間関係を築くことができる。		必要な情報を新聞や書籍、ネットで読み取り、意見を交換し合う。
5		3			
6	社会の中の仕事や活動	4	○様々な仕事や活動を新聞やインターネット情報で読み、自分にできることや、やりたい活動について考える。 ◆社会と自己の関りについて考え、様々な生き方・働き方を知る。		必要な情報を新聞や書籍、ネットで読み取り、意見を交換し合う。
7	自律と自立	2	○社会生活を送る上での必要な知識や技能を学ぶとともに、障害者を取り巻く現状と課題について考える。 ◆自らの社会的自立や共生社会の実現についての知識をもつ。		自分の考えを発表する。
9	消費者生活	4	○新聞記事やインターネット情報をもとに、消費者を取り巻く諸課題について考える。 ◆消費生活に関する知識を習得し、適切な行動に結びつけることができる実践的な能力を育む。		必要な情報を新聞や書籍、ネットで読み取り、意見を交換し合う。
10	「大きな進路」と「小さな進路」	4	○自らの将来設計を考える中で、自己実現「大きな進路」とその手段「小さな進路」について考える。 ◆自分の将来像や生きる意義などの考えをまとめる。		必要な情報を新聞等で読み、自分の場合と比較して考える。
11		4			
12	働くこと、生活すること	3	○生活の基盤となる「働く」ことの意義を考える。 ◆家族や先輩など身近な人の働き方や生き方を知り、自分の社会参加について考えをまとめる。		必要な情報を新聞や書籍、ネットで読み取り、意見を交換し合う。
1	社会人として	3	○働くために大切な健康管理や生活について具体的に考える。 ◆働くために必要なスキルを身に付けていく。		自分の考えを発表する。
2	主権者教育	4	○選挙権獲得と選挙権行使について考える。 ◆主権者とは何か、選挙とは何かを知る。		生徒会選挙を通し、実際の選挙についても知識をもつ。
3	進路について考える	2	○自分の長所を活かせたり、興味のもてる仕事について考える。 ◆卒業後のイメージをもつ。		将来の自分自身がどんな職業を選択するかイメージをもてるようにする。

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	日本の伝統文化		学習グループ名	高⑨	
目標・ねらい	(1) 伝統芸能の歴史、多様性を知り、貴重な文化であることを知る。 (2) 日本古来の芸術についての理解を深め、豊かな生活を創造する力を育む。 (3) 自然を尊重することの大切さや先人の知恵を知り、日本古来の文化の魅力に気付く。				
担当教職員 *学校介護職員	袖山 慶晴、石渡 ひかり、齊藤 尚寛				
年間授業時数	70 単位時間				
使用教科書	なし				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)	指導上の留意点及び工夫	
4	アニメ絵巻をつくる — 鳥獣戯画、北斎漫画から アニメへ① — 日本の食文化の8つの柱	3	○絵物語の制作 ◆日本のアニメをテーマに、その歴史的背景となる絵巻物や作家について学ぶ。 ○和食・日本料理・日本食の定義の違いを学ぶ。 ◆和食の特徴や定義を知る。(知識・理解)	面白い絵物語を用意することで、楽しんで学ぶことができるようにする。 ICT機器を用いて図を示すことで理解しやすくする。	
5	アニメ絵巻をつくる — 鳥獣戯画、北斎漫画から アニメへ② — 日本の食文化の8つの柱 米	4	○「VOICEVOX」を使ったアニメーションの制作 ◆アニメの歴史等をテーマに、アニメーションを使って自分の考えをまとめて発表する。 ○インディカ米とジャポニカ米を炊き、違いをレポートにまとめる。 ◆比較した事柄をレポートとしてまとめることができる。(思考・判断・表現)	アプリを使うことで簡単にアニメーションが作成できることを知るとともに、自分の考えをまとめるには様々な形があることを知る。 体験的学習を行い、イメージしやすくする。	
6	いろいろな文字を読んでみよう 日本の食文化の8つの柱 水	4	○くずし字や変体仮名を使って文章を書き、クイズを作成する。 ◆江戸時代までの日本における文字の歴史と多様性について学ぶ。 ○軟水と硬水の飲み比べ、かつお節削りなどの体験的学習を行う。 ◆実習に積極的に参加しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)	街中で見かける「きそば」の看板の文字等、見かけるのに読めない「くずし字」を取り上げるようにする。 体験的学習を行い、イメージしやすくする。	
7	祭りの魅力 日本の食文化の8つの柱 木	3	○祭りをテーマに、アンケートを作成し、結果を表にまとめる。 ◆祭りの意味や魅力、祭りに対する地域社会の人々の思いや心意気等を探る。 ○インターネットで漆器の作り方や産地について調べてWordでまとめ、発表する。 ◆漆器について調べた内容を発表することができる。(思考・判断・表現)	自分の住んでいる地域の祭りを調べること で、興味・関心がもてるようにする。 ICT機器を用いてまとめることで、発表しやすくする。	
9	相撲と現代生活 日本の食文化の8つの柱 魚	4	○相撲についてアンケートを作成し、表にまとめる。 ◆大相撲をテーマに、日本の誇れる文化を世界の人に説明できるようにする。 ○親潮と黒潮の関係についての復習など、ワークシートを用いて学習する。 ◆魚の生食文化の特徴を理解する。(知識・理解)	自分の住んでいる地域にある相撲部屋を調べることで、興味・関心をもつことができるようにする。 中学部で学んだことを生かしながら学習を進めることで、知識の定着を促す。	

月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導上の留意点及び工夫
10	色、形、文様 日本の食文化の8つの柱 神饌・包丁	4	<p>○PCで自分の柄を作成する。</p> <p>◆日本古来の色、形、文様について風呂敷や手ぬぐいを通して、その視覚的な面白さについて、理解を深める。</p> <p>○おせちの品目の意味や和包丁と洋包丁の違いをインターネットや書籍を用いて調べ、プレゼンテーションソフトでまとめ、発表する。</p> <p>◆神饌や包丁について調べた内容を発表することができる。（思考・判断・表現）</p>	<p>「かまわぬ」の模様のように、楽しめる模様を紹介するようにする。</p> <p>班を作り、生徒同士で発表し合うことで知識の定着を促す。</p>
11	将棋に学ぶ 日本の食文化の8つの柱 発酵・うま味	4	<p>○将棋の歴史について学ぶ。</p> <p>◆人間として成長するためには、礼節を尊び、勝負を通じて何を学ぶべきかを考える。</p> <p>○自分たちで食材を選び、味噌汁を作る。</p> <p>◆食材の選択についての話し合いや調理実習に積極的に参加しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）</p>	<p>実際に将棋を指すことで、その難しさや楽しさを感じられるようにする。</p> <p>体験的学習を行い、イメージしやすくする。</p>
12	日本の学び 私の和食（まとめ）	4	<p>○オリジナルのかるたを作成する。</p> <p>◆遊びを通してことわざを学ぶことをならいとした「いろはかるた」から日本人の工夫について学ぶ。</p> <p>○ワークシートや使用した資料に書いてある各時代の数を数えて、日本食文化の流れについて考え、思ったことをまとめて発表する。</p> <p>◆思ったことをまとめ、発表する。（思考・判断・表現）</p>	<p>作ったかるたはコピーをして、他の学習グループに配布をする。</p> <p>今まで使用した資料やワークシートを用いて振り返りやすくする。</p>
1	和楽器を聞こう	8	<p>○和楽器に触れ、演奏する。</p> <p>◆和楽器の響きの特徴を知る。</p>	<p>様々な和楽器を知ることができるようにする。</p>
2	世代をつなぐ日本のうた	7	<p>○様々な歌を聞き、歌う。</p> <p>◆歌の歴史的・文化的背景や人々にとっての意味を探る。</p>	<p>現在にも通じる良さのある歌を選ぶようにする。</p>
3	文化としての日本の音	5	<p>○身の回りの音を録音し、加工する。</p> <p>◆文化としての日本の音の特徴やよさを理解する。</p>	<p>ICT機器を使って、楽しんで活動が行えるようにする。</p>

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	総合的な探求の時間		学習グループ名		高⑤
目標・ねらい	(1) 学校行事の事前学習・事後学習を、友達や先生と協力して行う。 (2) 繰り返しの活動により、活動内容に対して簡単な見通しをもつ。様々な環境で、それぞれの力や良さを発揮する力を伸ばす。 (3) コミュニケーション・スキルや地域での暮らし方について学ぶ。				
担当教職員 *学校介護職員	高橋 奈穂美、平井 帆香、佐藤 やよい、所 竜之介、石田 有香、鎌形 翼、椿 早百合、齊藤 尚寛 *宇都宮 雅彦、*比嘉 郁、*永池 秀行、*西久保 千枝子				
年間授業時数	35 単位時間				
使用教科書	なし				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)		指導上の留意点及び工夫
4	高等部を知ろう	3	○高等部の1年間の活動に見通しをもって考え、学年目標や係を決める。 ◆高校部の生活を知り、学年目標や係活動を定める。		・学校行事の事前学習・事後学習を、友達や先生と協力して行えるように、学習内容や場面を設定する。 ・繰り返しの活動により、活動内容に対して簡単な見通しをもてるようにする。 ・様々な環境で、それぞれの力や良さを発揮する力を伸ばせるように個々の実態に応じて指導する。
5	学期の行事の確認 体育祭事前事後学習	7	○写真やスライドを見たり、簡単な体験をしたりする。 ◆学期の学習について知り、学校生活に見通しをもつ。 ○体育祭の種目を知り、友達と発表し合う。 ○体育祭で身に付けた得意技を披露する。 ◆体育祭を通して、友達と協力する力を養う。		
6					
7	学期のまとめ	2	○各活動の写真や動画を見て1学期を振り返る。 ◆静かに写真やスライドの鑑賞ができる。		
9	学期の行事確認 墨東祭事前学習 移動教室事前事後学習	11	○写真やスライドを見たり、簡単な体験をしたりする。 ◆学期の学習について知り、学校生活に見通しをもつ。 ○場所の写真やスライドを見て、行く場所(地域)について考える。 ◆移動教室に行く場所を知り、地域について考え、できる活動を行う。 ○移動教室の事前学習で行ったことを生かして墨東祭準備を行う。 ◆先生や友達と協力して活動する。		・学校行事の事前学習・事後学習を、友達や先生と協力して行えるように、学習内容や場面を設定する。 ・繰り返しの活動により、活動内容に対して簡単な見通しをもてるようにする。 ・様々な環境で、それぞれの力や良さを発揮する力を伸ばせるように個々の実態に応じて指導する。
10					
11					
12	墨東祭事後学習 学期のまとめ	3	○各活動の写真や動画を見て1学期を振り返る。 ◆静かに写真やスライドの鑑賞ができる。		
1	進路学習	3	○墨の香りを感じながら、書初めを行う。 ◆日本固有の文化を体験し、活動に興味・関心を向ける。		・学校行事の事前学習・事後学習を、友達や先生と協力して行えるように、学習内容や場面を設定する。
2	主権者教育	3	○模擬選挙を行い、仕組みを学ぶ。 ◆選挙を通して社会を知る。		・繰り返しの活動により、活動内容に対して簡単な見通しをもてるようにする。
3	進路について	3	○ICT機器などを使って進路について調べる。 ◆卒業後の進路について考える。		・様々な環境で、それぞれの力や良さを発揮する力を伸ばせるように個々の実態に応じて指導する。

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	特別活動			学習グループ名	高⑤
目標・ねらい	(1) 写真や資料等視覚的支援を取り入れ、活動への理解を促す。 (2) 全員が意欲的に参加できるように、道具や活動のルールを工夫する。 (3) 文化的な体験を通して、日常生活の楽しみ方を知る。				
担当教職員 *学校介護職員	高橋 奈穂美、平井 帆香、佐藤 やよい、所 竜之介、石田 有香、鎌形 翼、椿 早百合、齊藤 尚寛 *宇都宮 雅彦、*比嘉 郁、*永池 秀行、*西久保 千枝子				
年間授業時数	35 単位時間				
使用教科書	なし				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)		指導上の留意点及び工夫
4	高等部の生活について	3	○自己紹介、一年間の予定確認、学年目標決め、係活動決めなど。 ◆高等部の一年間の生活を知る。		一年間の流れを知り、見通しをもてるようにする。
5	レクリエーション	3	○レクリエーション ◆ルールのある遊びの中で、友達と競ったり、協力したりすることができる。		意図的にチームを組み、生徒同士のやり取りが生まれるようにする。
6	体育祭に向けて	4	○体育祭の競技や応援練習など。 ◆体育祭に向けて期待を高める。		応援グッズを作成し、練習の段階から本番の雰囲気味わえるようにする。
7	移動教室事前・事後学習	10	○係ごとに事前・事後学習を行う。 ○内容に関する話し合い、準備、練習など。 ◆行事への期待感を高め、協力して一つのものを作り上げる。		パンフレット、しおり等を活用し、見通しがもてるようにする。
9					係ごとに事前学習や調べ学習を行い、理解を深めていく。
10					写真や映像などを活用して、具体的に振り返れるようにする。
11	墨東祭に向けて	3	○全体練習、発表内容についての話し合い・分担など。 ◆役割をもって、仲間と協力する。		自分の役割を意識できるように、準備の係活動を設定する。
12	レクリエーション	3	○レクリエーション ◆ルールのある遊びの中で、友達と競ったり、協力したりすることができる。		意図的にチームを組み、生徒同士のやり取りが生まれるようにする。
1	主権者教育	3	○模擬選挙を行う。 ◆生徒会選挙を通して選挙を知る。		写真や演説の音声を利用して、「選ぶ」「投票する」ことを主体的に行えるようにする。
2	伝統文化に触れよう	3	○調べ学習を行う。 ◆日本独自の伝統技術を体験する。		教材だけでなく、衣装や背景を活用し、伝統文化の雰囲気を感じられるようにする。
3	1年間のまとめ	3	○1年間の学校生活を振り返る。 ◆スライドなどを見て一年間を振り返る。		写真や映像などを活用して、具体的に振り返れるようにする。

令和6年度(2024年度) 都立墨東特別支援学校(肢体不自由教育部門) 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	第1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	自立活動		学習グループ名		高⑤
目標・ねらい	(1) 生徒が障害の状態や発達の段階に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとする。 (2) 障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服する。				
担当教職員 *学校介護職員	杉浦 春久、高橋 奈穂美、佐藤 やよい				
年間授業時数	70 単位時間				
使用教科書	なし				
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)		指導上の留意点及び工夫
通年	自立活動	70	○セルフストレッチ・筋力トレーニング ◆筋緊張の緩和や疲労回復、並びに関節の可動域の維持・拡大を図るとともに、主体的に自らの身体の状態を判断し、セルフメンテナンスを行おうとする姿勢を育む。 ○座位、膝立ち、立位の取り組み ◆主に静的バランス力の向上を図る。 ○バランスボールやトランポリンを使った活動 ◆体幹の強化並びにバランス力の向上を図る。 ○歩行訓練、階段昇降 ◆主に動的バランス力の向上、並びに下肢筋力の維持・強化を図る。 ○手指の操作性を高める活動 ◆手指を用いた作業に対する作業性の向上を図る。 ○車いすの操作技術の向上、並びに安全に運行するための知識の取得 ◆社会生活における行動範囲の拡大を目指す。		・生徒自身が主体的に身体に取り組むために、体調などを確認する中で、生徒と教員間で取り組むべきメニューを相談して決定していく。 ・車いすの取り組みでは、校内並びに学校周辺の歩道などを活用することで、様々な環境下での走行を体験する。